



# 収穫後にできる難雑草の 効果的な除草方法

一年生雑草は、種子のみを残す雑草をいい、多年生雑草は、種子以外の地下茎(塊茎)や根っ子を残すものをいいます。この多年生雑草は、体が大きいことや繁殖の方法が複雑であるため防除が難しい雑草で、『オモダカ』『クログワイ』は稲刈り後も生育を続け、地中で来年の発生源となる塊茎を形成します。本田での除草剤による防除だけでは、根絶することは非常に難しいです。そのため、冬期の耕起作業や稲収穫後の除草剤散布などを組み合わせて、複数年にわたり防除する必要があります。



## 耕起による効果

収穫後から冬期までの間にロータリー耕を行い、雑草の地上部を埋没したり、茎や根を切断することで塊茎の形成量を抑えることができます。また、多年生雑草塊茎は低温や乾燥に弱いので、よく乾燥する田では冬期の耕うんにより塊茎を掘り出し、地表面にさらすことで、塊茎量を減らす効果があります。

## 防除剤による効果

収穫後に再生してきた雑草に非選択性の茎葉処理を散布することで、塊茎を枯死させることができます。

### ●除草剤の使い方

- ①ラウンドアップマックスロードは、50倍液を散布します。
- ②稲刈り時に高刈りをするなど、クログワイなどの緑色の茎葉部を20cm以上確保した状態で散布します。
- ③ただし、低温になり雑草の生育が停滞する頃の散布は、効果が落ちるので散布時期に注意をしましょう。

※次回作付の環境こだわり農産物に、農薬成分数がカウントされますので、ご注意ください。

オモダカ、ウリカワの塊茎の寿命は1～2年、クログワイの塊茎の寿命は3～5年です。こまめに防除対策を毎年継続して実施し、雑草の発生密度を下げる必要があります。



# 石灰窒素の休眠覚醒効果を利用した「ノビエ」防除

- 石灰窒素の主成分シアナミドには、種子の休眠を覚醒させる効果があり、種子がシアナミドに接触すると呼吸阻害を起こし、発芽を誘発するとされています。最近ではカラスムギ、ネズミムギ、漏生イネにも効果が明らかになっています。
- ノビエの種子は稔実したときは休眠しており、自然条件では冬を経過しなければ発芽しません。翌年になると多発生するため、その間にノビエの種子数を削減させる必要があります。対策として石灰窒素の休眠覚醒効果が注目され、地表に落ちているノビエの種子は休眠が覚醒して発芽し、冬の寒さで枯死します。
- 発芽には18℃前後の平均気温が約15日続き、且つ土壤中に発芽できる水分が必要です。秋に発芽しなかった場合は、春先の田植え前に発芽します。このときにすき込めば楽に防除できます。

**ポイント**  
収穫後、できるだけ早く(9月中)に作業を行います。気温が下がらず、降雨後又は降雨が見込める2～3日前に石灰窒素を10a当たり40kg～50kg散布し耕耘します。(気温が高い時期ほど効果が高くなります)

